第 5 分科会 A グループ

平成 23 年度大学職員情報化研究講習会～応用コース～
「情報活用の重要性と情報システム部門の役割」

システム的な要因による課題
～情報システム部門の存在意義の考察～

導入

大学を取り巻く環境が日々変化する中，教育研究等の大学運営も変化を求められて久しい。大学運営（大学改革）には，そのツールとして情報システムが幅広く利用されている。今日，情報システムは大学運営の基盤インフラとして欠かすことのできない重要な位置付けとなり，多くの大学で情報部門が組織されている。

各大学での状況と組織内での情報部門についての功罪をまとめることで，いくつかの共通した課題を得た。そこで，A グループでは，「情報システム部門の存在意義の考察」を討議テーマとし，情報システムのみならず，情報システム部門の人材そのものが必要な存在となるべく，どのようにして大学運営に主体的に関わっていくか，情報システム部門の役割について，あらためて考察することとした。

情報システム部門の役割として，「大学全体の情報システムのグラウンドデザイン」および「教育に関する提言」の 2 点について現状の問題点に焦点をあて，解決案の検討および取り組みについて討議した。

情報システム部門の役割

① 大学全体の情報システムのグラウンドデザイン

□ 問題点

討議の中で，現状として情報システム部門であっても学内の各種情報システムの全体像が把握できていないことを確認した。部門ごとに情報システムが導入されており，「同じようなシステムが存在する」，「そもそもの導入理由も今に至っては不明確である」等の問題点が挙げられた。また，これらの問題点の中には，ベンダも散在し，情報資産・資材が非効率的に活用されており，人・物・金の面で無駄が生じていることも指摘された。

□ 解決案

これらの問題点は，主として情報システムが全体像を念頭に導入されていないことに起因しており，今後は情報システム部門がイニシアチブをとり主体的にグラウンドデザインを描くことが必要であるとの結論に至った。グラウンドデザインは，ぞれぞれの大学の教育・研究方針に即した「情報システムのあるべき形」を目指して形成されていくものであり，この「あるべき形」とのフィット＆ギャップが継続的に行われる必要がある。

□ 取り組み

具体的な取り組みとしては，中期的な視点から段階に分けて進めていくことが望ましい。

まず，学内の情報システムの導入にいたった経緯，仕様書，ベンダやコスト等，併せて，それぞれの情報システムの利用者からの声を聴取・分析し，現状を把握する。

次に，今後の運用方針や入替・再構築のため，情報システムとネットワークを一元的に集約し可視化を図り，今後の進むべき方向性について他部門と意識を合わせる必要がある。この際，これまでに得た情報に分析・評価を加え，情報システム部門としての中長期計画を示す。

最終的にこの中長期計画は，学内での討議を経てグラウンドデザインとして確立し，学内の PDCA サイクルや大学が掲げる中長期目標に組込まれ，マネジメントの一旦を担うことが期待される。

以上から，当グループでは，これらの取組みは，情報システム部門のみならず他部門との協働の下，推進されることが重要であるとの結論に至った。

② 教育に関する提言

□ 問題点

討議の中で，大学生の学生生活のひとつ，メールや掲示板でのコミュニケーションにおけるモラル(いわゆるネチケット)の低さが感じられたり，また，大学生として最低限身につけておいてほしい情報技術についての問い合わせさえも多く寄せられたりすることが問題として挙げられた。

また，情報システム部門として，業務や問合せ対応で蓄積した知識や技術の情報が有効活用されていないという問題点も挙げられた。

□ 解決案

情報システム部門として，業務で得られるノウハウを元に，学生に不足している知識や技術を整理し，情報教育の一環として取り込むよう提案する。それを実現するためには教員との協力が欠かせない。教職協働の情報計画立案・実施を行うことが重要である。

□ 取り組み

具体的には，授業の内外問わず学生が情報技術について学べる仕組みを作成する。ポイントは，日々利用している情報技術の中から，「大学生にとって有効な技術」をまとめたり，中学校・高等学校での IT 活用の現状・動向を調査し，デジタルネイティブに対応した仕組みを検討して提案したりする。

また，専門分野での情報技術の活用に向けた試みとして，教員や若手研究者を通じて，最先端の研究で使われている情報技術について調査し，その調査内容を反映した技術に関する科目を，学部 1，2 年次のカリキュラムに導入することを提案する。

これらの取り組みを通して，教育へ情報システム部門が踏み込める足がかりを作る。更に実績を積む事により，教員からの信頼を得ていけるはずである。

まとめ

これまでの情報システム部門は，大学の運営を裏方として支える「黒子」の役割を果たしてきた。しかし，昨今，情報システム分野が目覚ましく発達を遂げ，コンピュータが一般へ普及したために，エンドユーザーへの対応など，システム運用および管理のみでは不十分となってきている。

当グループは，これからの大学情報システム部門の役割として，「大学全体のシステムのグラウンドデザインに積極的に関与していくこと」「情報システム部門が情報教育に参画すること」を軸として，それぞれの取り組みについて討議した。

この 2 軸は大学運営の視点から，まったく異なる取り組みであるように感じる。しかし，情報を収集し，それを反映させる点では合致する。また，それを実現するために，これまでの情報システム部門の経験を活かし，情報管理を行うことは十分可能であると思われる。さらには，蓄積したデータを分析し，評価，提案，実行および運用などを手掛ける重要な部門・人材となりうる可能性もある。

情報システム部門が，「情報」そのものに向き合い，大学の将来像を見据え，教職協働の推進を図ることで，より円滑な大学運営の核となることが期待できる。

以上